

【日刊建設新聞千葉版 2021年4月9日付 1面】

# 設備点検に小型ドローン

## 国土交通省 i・C・O n大賞で優秀賞

千葉市中央区のドローンメーカー「Liberaware（リベラウェア）」が、国土交通省の「i・C・O n Construction」大賞で優秀賞を受賞した。ドローンメーカーとしての受賞は初めて。事業戦略室の北川祐介氏は「狭くて暗くて汚いところ、専用というニッチな小型ドローンとして、世界一を目指したい」と話す。同社は、ドローン開発に必要な「ハードウェア」制御ニア

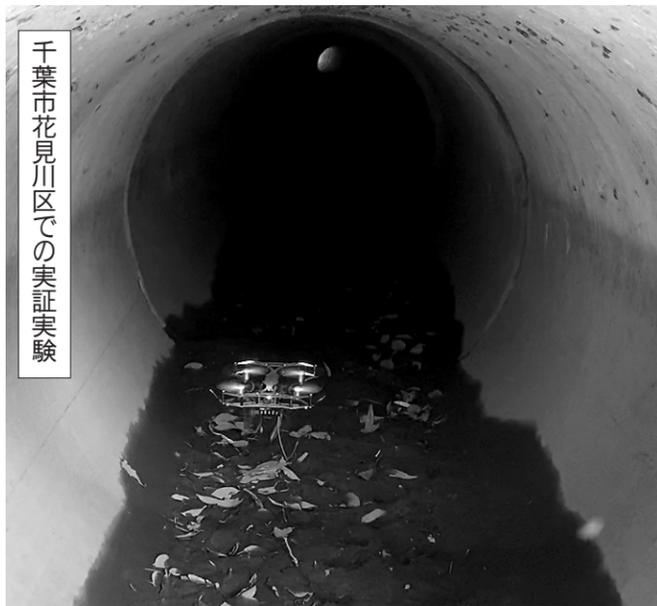


### ひと☆企業 2021

## リベラウェア (千葉市中央区)

### 「狭い・暗い・汚い」に特化

「リベラウェア」の各部門に専門チームを配置し、全ての技術を自社で開発・製造。事業は▽インフラ設備点検▽自動パトロール▽フラッシュ点検▽自動パトロール。業種的には製鉄会社や電力



▽画像解析・編集の3本が柱となる。このうち、同社が「i・C・O n Construction」大賞で

優秀賞を受賞したのは「インフラ設備点検」。受注実績のトップ3は、煙突、ダクト、ボイラ

1。業種的には製鉄会社や電力

会社、石油化学コンビナートが多いものの、ゼネコンなど建設業からの依頼が増えてきているという。

開発したのは産業用小型ドローン「IBIS（アイビス）」。20cm四方の大きさで、バッテリーを含む重量もわずか185g。小さくて軽いのが最大の特徴だ。姿勢制御技術や超高感度カメラの開発に注力した。前後左右のガードと長年の研究で培った制御技術により、多少の衝突では墜落しない飛行が可能となった。暗闇の中でも鮮明な映像を撮影することができる。直径50cmの配管内も安定飛行させ、1つのバッテリーで最大8分もの飛行を実現させた。

操縦者は安全なエリアにいな

がら、ドローンだけを点検箇所

まで飛行させ、動画を撮影。そのデータをもとに3D化や点群

化、オルソ画像化といった映像

処理まで、一気通貫でサービス

を提供する。

同社は2019年度、千葉市

のトライアル発注認定事業とし

て、花見川区で雨水管渠内点検

の実証実験に参加した。管渠の

なかに、ドローンを飛行させ、

内部の劣化状況を確認した。調

査困難箇所の調査に期待が寄せ

られている。

北川氏は「純国産の小型ド

ローンで、建設業のデジタル・ト

ランスフォーメーション(D

X)に貢献したい」と意気込み

を語る。

### 会社概要

Liberaware (リベラウェア)

2016年8月に、関弘圭(ミン・ホンキュ)氏が千葉工業大学のロボット工学研究室の先輩と後輩で設立したベンチャー企業。社員29人の大半がエンジニア。社名のLiberは「自由」、wareは「ハードウェア、ソフトウェア」の意味が込められている。ハードウェアとソフトウェアを自由に駆使して、企業の生産性と安全性の向上に貢献するモノづくり企業を目指している。